

# 令和 6 年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和 7 年 1 月 3 0 日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
育む 人間関係と豊かな心を	一人一人を大切に した学級・学校づくり	・学級経営、学校行事等に心を耕す方策を取り入れるとともに、温かなつながりを基盤にした安心できる集団づくりに取り組む。	B	B	・「こころタイム」の継続実施により、マインドコントロールの方法を自分なりに工夫できる子が増えてきた。 ・毎月の生活サポート情報交換会により全校児童の困り感を教職員で共有できた。 ・自分で何でもできず困ってる子へのアプローチを模索していきたい。	A	・子どもの状況を全職員で共通理解しながら教育活動を進めていてよい。 ・子ども一人一人それぞれ個性や特性があるので、しっかりと寄り添った支援をしてほしい。	・生きづらさを抱える子どもなど、生活サポート情報交換会において、助言者を招聘しながらケーススタディを行うなど、子どもの多様性に対応できる資質の向上を図っていく。
	互いを認め合う心の育成	・道徳教育の充実を図り、自分らしさを実感し、それらを共有・共感できる支援を工夫する。 ・子どもの特性に応じた支援を見直し、子どものありのままを受け入れる多様性を大切に支援を実践する。	B					
わかる楽しさ・できる喜びを感じ、自ら学び続ける姿勢を育む	基礎基本の習得	・「本時の目標」を意識し、的確な支援を講じる。 ・「振り返り」から、自己の変容を自覚できるようにする。 ・学びのプロセスを重視するとともに、伝える力・発信する力を高める実践に取り組む。	B	B	・授業で振り返りの時間を確保し、書き方の指導を継続的に行う中で、自分の習熟の様子を言語化できたり、次への学習の意欲につながったりする子が増えてきた。 ・体験的な授業を増やすことで、学びに向かう意欲の継続につながった。 ・各担任による公開授業をどの担任も年に一回開催し、教員同士が視点をもって授業から学ぶ機会が、力量向上につながった。 ・担任が家庭学習（主に花ちゃんノートや自主的な家庭学習）を提示することがまだ多いが、自分で進んで課題を見つけて取り組む子のトピックやノートのまとめ方を提示する機会を増やしていきたい。	A	・振り返りを行い、自分の学びを客観的にとらえることはよいことで、継続してほしい。 ・自ら学び続ける姿勢や自主的な家庭学習はとても難しく、教材研究で子どもの興味など、まずは捉えをしつかり行い、家庭学習についても、一定の時間を確保するための手立てを考えたい。	・一斉・グループ・ペアトークなど、授業の流れに応じて話し合いの形態を工夫し、関わり合いの中で子どもの学ぶ意欲を引き出していきたい。 ・希望の花ちゃん学習については、子どもへの意欲喚起につながる手立ての例（まとめ方・授業の単元から派生した学び・よい気づきや疑問等）について、教員同士情報共有を進めていきたい。
	「わかる楽しさ」「できる喜び」を感じる授業	・子どもの思いや願いをとらえ、問題解決的な学習を構想し、子ども主体の授業を実践する。 ・ひとり学び（ひとり調べ）と話し合い（対話）を効果的に位置づける。 ・体験・実物を重視し、学びと人とのつながりを重視した学びを図る。 ・学びのつながりを意識した実践を進める。	B					
	学びに向かう力を育てる	・「振り返り」等から子どもの意識・理解をとらえ、次の支援につなげる。 ・家庭学習のあり方を見直し、学校と家庭で連携して自主的な家庭学習の姿勢と習慣を育成する。	B					
力・安全意識を高める	生活習慣の確立	・「早寝・早起き・朝ごはん」を基本に、よりよい生活習慣の定着を図る。 ・メディアコントロールを働きかける。	B	B	・マラソン大会に向けたがんばりカードの活用により、子ども自身が自分なりの目標をもって取り組むことができた。 ・避難訓練や不審者訓練において、より現実味のある、実際を想定した訓練の計画・実施を行うことができ、教員の安全意識の向上につながった。	A	・メディアコントロールのチャレンジ週間は少しずつ成果に現れてきているので、ぜひ継続してほしい。 ・各種避難訓練など、抜き打ちで行うなど、よりリアリティのある訓練を継続して行ってほしい。	・職員の研修や、各種避難訓練において、想定される状況について、事前に議論を進め、より実際に遭遇したときに近いものにしていきたい。
	体力の向上	・体育の授業の取り組みのほか、マラソンチャレンジ、なわとび週間など、組織的・計画的に体力向上を図る。	B					
	安全教育の推進	・安全に関する生活目標の提示や授業等の取り組みにより、安全意識と実践力を図る。	B					
携して進める	教職員としての誇りと自覚	・教職員の自覚と力量、組織力を高めるため、研修体制とその充実を図る。 ・報告・連絡・相談の徹底を図り、風通しのよい環境づくりと信頼される教職員集団をめざす。 ・在校時間の上限を遵守するとともに、それぞれのステージの働き方のモデルとなるよう一人一人の意識改革を進める。	B	B	・様々な年代層の職員が入り混じった中、各種行事の準備では、経験値の浅い職員が率先して動き、ミドルリーダーが様々な視点から注意点や改善方法、合理的な準備について指南する様子が多々見られ、職員全体の資質向上につながった。 ・保護者と連絡を取れる時間に制限がある場合もあり、子どもの家庭や学校での様子・困っている様子を保護者と連絡を取り合うことが難しい場面があったので、工夫・改善していきたい。	A	・子ども・保護者・地域の実態を捉えながら、常に新しい取り組みや、改善した取り組みを行ってよい。 ・コミュニティスクールの組織づくりを含めた体制づくりは始まったばかりなので、少しずつ整備を進めていってほしい。	・コミュニティスクール導入に関して、まずは校区住民を含め、保護者へしっかりとその役割と意義について周知を行い、本校区の文化や風土にあった、持続可能な組織と活動の進め方について、委員会で熟議を進めたい。 ・保護者対応や電話連絡について、担任の時間制限を踏まえ、組織連携しながら進めていきたい。
	家庭・地域との連携	・学級通信やホームページを活用して、積極的に学校の教育方針や教育活動を発信する。 ・コミュニティスクールの組織づくりを進め、地域とともに学校運営に取り組む体制を整える。 ・家庭や地域の声を積極的に生かし、一体となって教育活動を推進する。	B					

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】